

# 環状はく皮によるナシ‘幸水’の 効率的な側枝更新法

更新予定の側枝基部に3月下旬～4月上旬頃、環状はく皮を行うことで、予備枝候補となる新梢の発生率が高まることわかりました。

ニホンナシ‘幸水’を安定生産のためには、側枝を速やかに更新する必要があります。そこで、更新予定の側枝基部から予備枝となる新梢を発生させる方法について検討しました。

その結果、予備枝として使うことのできる新梢の発生は、3月20日に環状はく皮し、BA50倍液を散布したものが最も多く、環状はく皮のみでも側枝1本当たり0.67本と植物ホルモン剤（BA、フルメット）を処理しなくてもかなりの効率で新梢の発生が見られました（図参照）。

環状はく皮の適期は3月下旬～4月上旬と考えられましたが、この時期は樹の活動がにぶく、作業性が劣るため、今後、簡便な環状はく皮方法について検討する必要があると思われました。



発生した新梢の様子（9月撮影）

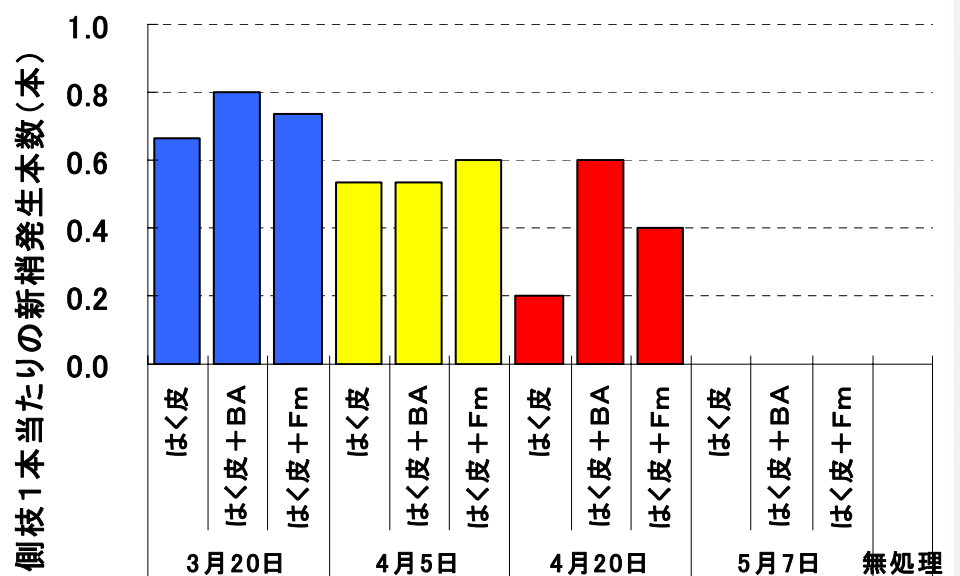


図 環状はく皮とBAおよびフルメット処理と処理時期が8mm以上の新梢発生本数に及ぼす影響(2007)

※注意：植物ホルモン剤処理（BA、フルメット）については、現段階で登録がありませんので、現地での使用は控えて下さい。

（栽培研究部 果樹グループ TEL 0853-22-6874）